

本格始動!

地域若者サポーター

サポーター活用事業担当チーフ 大熊 晋

はじめに

地域若者サポーターとは、自立や就労に困難を抱える若者を支援するための、所定の講座を修了された市民ボランティアの皆さんです。平成20年度(第1期)から23年度(第4期)までの4年間にわたり養成講習会を開催し、合計195名の方が登録いただいています。顔ぶれは、元教員やカウンセラーなど専門的知識をお持ちの方もおられますが、多くは「近所のおっちゃん・おばちゃん」といった親しみやすい方々です。

サポーターの役割と体制

当初は、「身近なところからできること」や「相談機関へのつなぎ役」を含め、「各自が無理のない範囲でできることに取り組んでください」という形でスタートしたので、自立に関して悩みを持つ若者やそのご家族に知合いのいる方が、個人的に情報提供をしていただくことが多かったかと思えます。毎年2回実施しているサポーターの交流会で徐々にサ



最後に

自立や就労に困難を抱える若者を社会全体で支援しよう、とスタートしたこのサポーター制度。ただ、現在、活動されているサポーターの人数はまだまだ少なく、皆さんの力を十分に引き出さされていないのが実情です。それでも、サポーターの中には、「こんなことをしたらどうか」という思いをお持ちの方も多くおられると思いますし、個別にお話すると、いろいろな思いを話していただけます。現在の活動は、青少年活動センターでの若者の居場所づくりに関連した取組が中心ですが、次のステップとしては、自立や就労に向けた部分でサポーターの方々にとのように関わっていただくかが重要だと考えています。

今後は、従来のブロックとしての活動と並行して、サポーターの皆さんのご経験やネットワークを活かした形で、より多くの方々に関わってもらえる形を構築できれば、と考えています。

サポーターのコメント

若い方々の質問について考えるのは、私にとって新鮮です。サポーターとしての活動は、私の生活に小さい楽しい変化をもたらしてくれています。(何でも質問BOXの回答役/4期:谷岡さん)

11名の若者が元気に黙々と農作業する姿を頼もしく感じながら、新しい出会いを楽しませてもらっています。(野菜づくりから仕事に近づく就労支援/3期:岸本さん)

物事をあらゆる方向から深く考えることで、生きる力をもらっているのは、支援している私自身だと気づいた。支援をさせていただいて、ありがとう。感謝の気持ちを伝えたい。(学習支援/4期:村松さん)



事業所	取組名	内容
北	アフタヌーン亭★	おしゃべりやゲームなど、のんびり過ごせる“しゃべり場”
	料理の会	リクエストにより、買い出し、調理、試食までをサポート
	eat*moクラブ ～秋のバランスごはん～	管理栄養士資格を持つサポーターが、食の栄養バランスの大切さについて指導
	伝記作成プロジェクト	青少年ボランティアが作成した伝記の添削アドバイス
	野菜づくりから仕事に近づく	就労支援プログラムで、農作業をサポート
中京	コラージュ体験★	対人関係に少し不安のある若者が、コラージュを楽しむ場
	赤レンガカフェ★	サポーターと若者とが交流することのできる空間づくり
東山	何でも相談・何でも質問BOX	質問ボックスに寄せられた若者からの相談や質問に回答
	ヒガシヤマDEものづくり	居場所づくりとして、創造工作室をフリースペースとして開放
山科	カフェ★	センター利用の中高生年代の若者たちとの交流スペース
	浴衣の着付け体験★	地域の祭りに向けた、中高生向けの浴衣の着付け体験
	ロビープログラム(将棋)	ロビーを中心に将棋で若者と交流する場の設置(準備中)
下京	ロビープログラム(おっちゃんの会)	“若者と本音で話せる関係”を目指した交流スペース
	アジプロ(事務作業体験)	センター事務所での電話対応実習への協力
南	アジプロ(喫茶体験)	ロビー喫茶の営業(就労支援事業)を行なう若者への協力
伏見	はじまるさろん★	ひきこもりやニートなどに関して市民が理解を深める場づくり
サポステ	学習支援	元教員のサポーターが個別指導(学びなおしの場)

★印はサポーターの各ブロックが主催する取組、それ以外はセンター主催事業

ポーター同士の繋がりが生まれ、3期の養成講習会終了後には、5つの地域ブロックを立ち上げて、サポーターの活動体制を整えました。翌年には第4期養成講習会を修了したメンバーも合流し、ブロックごとに「どんな取組をしようか」と検討を重ね、いくつかの取組がスタートしました。平成24年度からは、各青少年活動センターにサポーター担当者を置き、「自立に関して困難を抱える若者を支援する居場所事業の充実」と「世代間・異年齢交流の機会作り」という切り口で、各ブロックとの協働した取組を検討・実施しています。(別表)

また、これらのブロックとしての取組に限らず、それぞれの資格や特技を活かしてセンターやサポートステーションの事業に協力していただいているケースもあります。若者を支援する中で、サポーター自身も新たな発見や学びを得ながら、さまざまな形で若者に関わっていただいています。こうした動きの中から、サポーター同士の横のつながりも徐々に生まれ、「じゃあ今度そっちのをのぞきに行ってみるわ」、「そっちのプログラムをこっちでもできないか?」というような、ブロックを横断する動きも出てきました。

